

「世界LPガス協会(WLPGA)」の概要

THE WORLD LP GAS ASSOCIATION (WLPGA)

2012-7-19 (LPGC 作成)

1. 設立の経緯

国際連合経済委員会ヨーロッパ部門は、第二次大戦後、多年に亘りLPG分野における活動をヨーロッパLPG連合他のEU各国LPG協会の事業への支援という形で行ってきた。1985年にヨーロッパLPG連合(国連ヨーロッパ経済委員会後援)のシンポジウムが開催され、その際、ヨーロッパLPG連合を発展的に解散して世界的規模でLPG産業を網羅する「世界LPGフォーラム」の結成が決議された。

1986年に国連本部においてフォーラム準備委員会が組織され、1987年に新たな世界的規模を持った「世界LPGフォーラム」が結成された。

1996年秋に、「世界LPガス協会(World LP Gas Association: WLPGA)」に名称変更した。

2. 本部

パリ(フランス)

3. 設立の目的

イ. 世界的規模でのLPG産業の永続的発展の促進。

ロ. LPG産業における保安技術、安全操業の促進。

ハ. LPG利用・保安等の政策決定への働きかけ。

4. 活動内容

イ. 毎年世界各地持ち回りによる会議・展示会の開催。

ロ. LPGの各分野に亘る教育・セミナーの開催。

ハ. LPGに関する情報の収集と伝達。

ニ. LPG及びその関連装置、器機の規格の検討と保安向上活動。

ホ. 発展途上国へのLPG関連技術移転の促進。

特に近年は、環境対応と言った観点からオートガスの普及、LPガスの郊外型用途、農業用用途等の用途開発活動に力を入れている。

5. 国際的な位置付け

イ. 国際連合(UN)の社会・経済評議会の諮問機関として承認され、LPGに関する諮問機関となっている。

ロ. 国際海事機構(IMO)及び国際ガス連盟(IGU)と密接な協力関係を有すると共に、国際標準化機構(ISO)にLPG及びその関連機器・装置の規格について助言・提案する機関となっている。

ハ. 世界銀行による発展途上国へのLP ガス関連の援助について、助言する機関となっている。

6. 会員数

2012年6月現在 186企業・団体(54ヶ国・地域 * 活動地域は100ヶ国・地域)

* 内日本は15企業・団体(米国に次いで2番目)、会員の構成は多岐に亘っている

協会・団体、生産者、販売企業(元売・卸・小売・オートガス)

機器メーカー(供給機器・消費機器・バルク容器・充填設備)

エンジニアリング会社、輸送会社、調査研究機関 等

7. 日本の位置付け

イ. 日本の会員数は、15企業・団体(2012年6月現在)。

日本はイタリー、フランス、米国と共に主要メンバー国である。

ロ. エルピーガス振興センター理事長は世界LPガス協会の理事に任命されている。

ハ. WLPGA の方向性等重要な事項を検討する幹事会(industry council)には、日本LPガス協会の名前で登録されているが、日協とセンターは協同で取り組んでおり、センターも会費の40%を負担している。

ニ. 日本会員(順不同)

アストモスエネルギー、コスモ石油ガス、エネオスグローブ、高圧ガス保安協会、伊藤工機、岩谷産業、日本LPガス協会、全国エルピーガス協会、コアガス日本、エルピーガス振興センター、リンナイ、サイサン、昭和シェル石油、八千代工業、ヤンマーエネルギーシステム

ホ. 振興センターの位置付け

日本がLPガスの大消費国であることから、WLPGA からの要請もあり理事の選出国となっている。

センターは、第6回世界フォーラム・東京大会(於幕張)の実施にあたり開催地事務局として協力した。その経緯もありセンター理事長が WLPGA 協会理事となっている。

当センター国際セミナーには概ね2年に1回のサイクルで WLPGA 理事長が講演し、主として欧州LPガス事情、環境問題に関連するオートガス需要開発等の視点で発表を行っている。

以上